

金融から始まる近未来（中学生向け）

主題

- 脱炭素化社会

- 世界的気候変動（温暖化）について国々が集まって国際会議が開かれています。大気中のCO₂（二酸化炭素）の量が増えると温暖化を促進してしまうという理論は2021年度ノーベル賞を受賞しました。異常気象による水害や竜巻での被害も止まることはありません。一方で国際会議では全会一致の決議はなかなか思うように進んでいないのが実情です。皆さんの暮らす近未来の世界はどのようなになっているのでしょうか？

- SDGs (Sustainable Development Goals)

2015年に国際連合の会議で採択

された、2030年までに地球を守るために設定された目標があります。各国政府もこれに向かって大きく舵を取り、日本も大きく貢献しようとしています、

国民総生産（GNP：Gross National Produce）額では現時

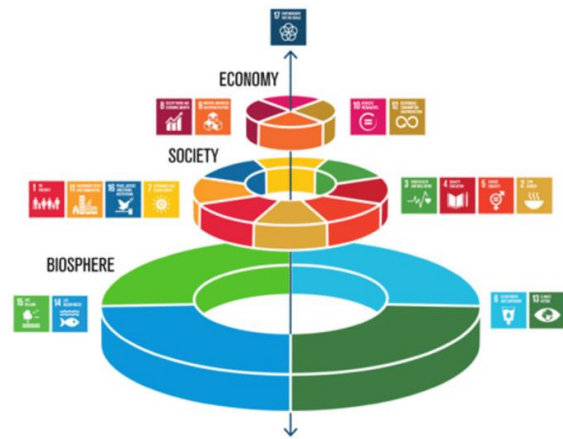
点で世界で第三位の日本も、SDGs Index¹では2021年度165カ国中18位と出遅れ気味です。



- グリーン/ソーシャル/サステナビリティ金融

¹ <https://www.sdginde.org>

- そんな中、いち早く国際金融の世界では、SDGs に貢献している企業や団体に対する投資という側面で、新たなルールを作り世界企業に圧力をかけられるまでになりました。お金を動かすことができるのは、人々の



「信用」に根ざしています。その「信用」を勝ち取るために国よりいち早く動き出したのが金融の世界です。SDGs には環境、社会、経済そしてパートナーシップという層があると分析できます。環境、社会、そして経済を統合的に動かすことができるのは、皆さんの気持ちと気持ちのいったお金がネットワークされた時なのかもしれません。

グリーン金融とは企業が環境経営を展開していく際に支援する金融で、環境に好影響を与えるテクノロジーを開発する企業に積極的に投資していこうとする動きが見られます。

ソーシャル金融とは社会的（非金銭的）リターンを生み出すことを目的としたファイナンス手法で、社会起業家に資金を提供する新たな手法で、SDGs に貢献できる活動を支援しています。

サステナブル金融とは持続可能な社会を実現するための金融で、まさに経済も巻き込んで、社会活動を変革していこうとするプロジェクトに積極的に投資していこうとしています。

つまり金融の世界ではいち早く地球を守ろうとする動きが生じています。

- FinTech (Financial Technology)

- 「フィンテック」と読みます。新聞記事などでも多くみられるようになりました。金融の世界はもともと論理的な仕組みで動いています。従来は大手金融機関が大量資本を投じて大型の計算機の上にシステムを構築していました。また

24 時間稼働し続けて、コンピュータが停止しないような仕組み、さらに外部から攻撃されないような高度な安全性を担保する必要がありました。しかし、そうした大きな仕組みにも最近ではひずみが生じています。国際競争力をつけるために大手企業同士が合併などを繰り返してきた為にシステム自体をつなぎ合わせる必要があり、複雑になってしまい、エラーも多発することになってしまいました。

そこで近年登場してきたのが、元々システム開発をしていた企業などです。金融の一部分の仕事を専門に開発し続けています。家計簿システムから企業の会計処理システム、地域ポイントシステム、コンピュータが自動的に投資をしてくれるシステム、安全性を高める為に一つの暗号を複数の掲示板に分けて保存するシステム（ブロックチェーン²）などを活用してアート作品の販売データを管理するシステム（NFT: non-fungible token：非代替性トークン：売買可能な一意のデータの塊）などを開発する企業等が急激に登場してきています。

- CSR（Corporate Social Responsibility：企業が組織活動を行うにあたって担う社会的責任）から新規事業開発に

- 企業は人々の大切なお金を循環させる仕組みでもあります。その企業が金融業界とタッグを組んで、SDGs を本気で目指す世界が動き出しています。SDGs の目標に対して当初は CSR や企業広告の部門が対応していましたが、ここ数年新規事業開発の担当部署が積極的に関わるようになってきました。つまり、SDGs をコストとして考えるのではなく、SDGs が動力となって新たなマーケットが出来る事を信じて、テクノロジーを駆使し、次なる時代に備えようとしています。例えば、ガソリンで走る車から、電気自動車や水素で動く自動車の開発競争などが起きています。

こうした時代に呼応するかのよう、学校現場でも生徒達の活動から SDGs に貢献しようとするプロジェクトが全国で立ち上がりつつあります。さて、皆さんはまず何から始めますか？

² <https://www.zenginkyo.or.jp/article/tag-g/9798/>

- プロジェクト・マネジメントとリスク・マネジメント

- 人生を一つのプロジェクトと考えた時、皆さんが関わる仕事は永遠に続けられるものになるでしょうか？時代の変遷と共に、仕事の中身も変われば、企業も永遠と続くものではありません。

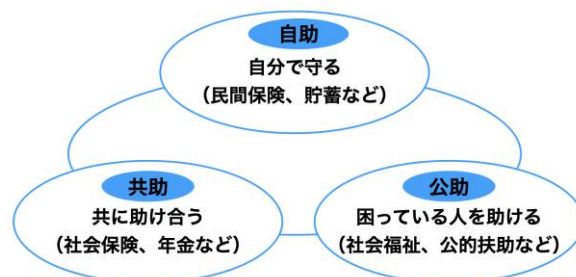
学校にいる間には、個人で評価される場合が多いですが、社会に出ると評価体系もチームでという場面に出くわす時が多くなるでしょう。チームでプロジェクトに立ち向かう準備はできていますか？そのヒントとなる手法がプロジェクト・マネジメントです。

プロジェクトを管理する手法、プロジェクト・マネジメントは世界共通の手法で出来上がっています。プロジェクト・マネージャーという国際資格もあります。そんな管理手法の一つにリスク情報を管理するリスク・マネジメントという考え方があります。まだ起きていない未来のリスクも考慮に入れながら、プロジェクトに取り組む事によって、少しでも成功率をあげていこうとする考え方です。

- 自助、共助、公助

- 人は一生のうちに、自分や家族の病気、障がい、失業、死亡など様々なリスクと向き合うこととなります。それらのリスクに対して、一人で立ち向かうのではなく、何世代にもわたる

社会全体で助け合い、支え合う仕組みが社会保障制度です。



- 日本の社会保障制度は、自分で働いて自分の生活を支え、自分の健康は自分で守るという「自助」を基本としながら、高齢・疾病・介護などのリスクに対しては、社会連帯の精神に基づき、共同でリスクに備える仕組みとして「共助」があり、さらに自助や共助で対応できない困窮などに対しては、受給要件を定めた上で必要な生活保障を行う公的扶助や社会福祉などの「公助」が補完する、という仕組みになっています。³

自助の例	民間保険（生命保険、損害保険）、貯蓄（銀行）、有価証券（証券会社）
共助の例	社会保険（公的医療保険、公的年金保険、公的介護保険）
公助の例	社会福祉（児童、障害者、高齢者）、公的扶助（生活保護）、公衆衛生（予防接種）

★共助と公助の財源の違い・・・「共助」は労働者等から集める「社会保険料」、「公助」は国民から集める「租税」で運営されている。

³ https://www.seiho.or.jp/edu/data/hs_worksheet_01.pdf